

一般社団法人 日本画像学会 第 65 回定期総会議事録

日時： 2022 年 6 月 22 日（水） 13 時 00 分～13 時 50 分

場所： Zoom オンライン会議

出席： ・社員（委任状による者を含む）： 406 名

- ・役員 会長 佐藤 利文
- 副会長 小林 範久、藤井 雅彦
- 理事 田中 作白、吉田 稔、中山 信行、木崎 宏恵、
石本 文治、面谷 信、河野 信明、宮戸 健志
内藤 裕義、服部 好弘、高橋 茂樹、八角 邦夫
南 毅弘、坂口 雅敏（記録）
- 監事 中居 達、寺尾 博年
- 幹事 宮本 栄一、山崎 弘、朝武 敦、中井 洋志
- ・顧問 北村 孝司
- ・事務局 竹内 達夫
- ・主査・委員ほか 渡辺 猛、門永 雅史、鎰谷 賢治

< 議事 >

1. 開会の辞（中山運営委員長）

- ・ 定刻になったので只今から第 65 回定時総会を開催する。
- ・ 会長、副会長の紹介
- ・ 第 1～3 号議案が審議承認案件、第 4 号議案が報告案件である。

2. 会長挨拶（佐藤会長）

- ・ 昨年度トピックス
今年度もイベントはオンラインで実施（一部ハイブリッド）
ICAI2021 オンライン開催（参加者 141 名）
バーチャル空間 oVice で 4 DFF2021 開催
正会員が減っている。対策を役員研修会などで議論をしていく
- ・ 2022 年度予定
ICJ2022 開催
ICJ2022Fall は計画中
多数のイベントを企画していくのでぜひ参加をお願いします。

3. 定足数の確認・報告・議長選出（中山委員長）

①定員数の確認・報告

- ・ 定款第 13 条において総会成立は会員の過半数の出席が要件になっている。現在の会員数は 658 名（学生会員除く）であり、定足数は 329 名となる。
- ・ 出席者は、ハガキ/WEB による既議決者数 40 + 同委任者数 323 + 本日の出席者数 43 = 合計 406 名である。定足数 329 名を上回り、定時総会が成立する。

②議長選出

- ・ 定款第 15 条により総会議長は会員の中から選出することになっている。
- ・ 本日の参加者から議長を募ったが希望者は無し。よって、運営委員会から本学会の佐藤会長を議長に推薦した。

賛成多数で承認された。

4. 第 1 号議案：2022 年度役員案【審議・承認】（中山運営委員長）

・ 定款第 23 条により当学会の役員任期は 2 年であり 1 年毎に半数を改選することになっている。

・ 役員承認（総会資料 P12 を参照）

2022 年度改選候補（任期：2022 年 6 月 - 2024 年定時総会まで）：理事候補 19 名、監事候補 2 名

非改選役員：理事 10 名

役員/役員候補総数：31 名（理事/理事候補 29 名、監事候補 2 名）、内新任 6 名留任 25 名

・ その他、退任役員等の紹介（総会資料 P14 を参照）

2021 年度退任役員 6 名

2022 年度幹事 3 名、顧問 7 名

* 第 1 号議案に審議結果

2022 年度役員案について、賛成多数で承認された。

（事前投票：賛成 40 票、反対 0 票、議長/その他会員委任 323 票）

5. 第 2 号議案：2021 年度事業報告【審議・承認】（中山運営委員長）

・ 主要 5 委員会に絞り、スライドを用いた活動報告とさせて頂く。また、時間の関係上、運営委員長から 5 委員会の委員長を代行して報告する。

・ 以下 5 委員会以外の活動報告は配布資料を参照頂き、質問等をお願いしたい。

(1) 編集委員会（宮本幹事）中山理事代行

① 委員会組織・活動（各種活動は基本的にオンライン化）

- ・編集委員会 6 回開催, 特集企画会議開催
- ・学会誌企画・編集, 校正, 各種 WG

② 学会誌

- ・年 6 冊定時発行
- ・クラスタ論文特集号の発行 (12 月号)
Recent Progress of Advanced Light-Emitting
Devices and their Applications, 英文解説 6 編を掲載

③ その他の活動

- ・フリートーキング開催 (オンライン)
第 38 回「IJ の高機能化」, 2021/9/17, 72 名
第 39 回「3D プリンティング」, 2022/3/14, 45 名
- ・編集委員長賞選考・表彰
ICJ2021Spring, ICAI2021
- ・学会誌面向上の取り組み
編集・査読プロセスの変更
(要件確認専任者設置)
査読候補者の拡充

(2) 技術委員会 (小林副会長) 中山理事代行

①体制

- 委員長: 小林範久、副委員長: 藤井雅彦
- 主査交代: 電子写真技術部会 (渡辺靖晃⇒吉田健)

② 部会

- HP での部会活動内容紹介, 新領域検討 WG 立ち上げ

③ 討議・交流

- メール主査連絡・会議(4/30, 5/14, 12/21, 1/19)、総会 (1/19:参加者??名) 開催

④ 複写機遺産

- 第 3 回複写機遺産認定 3 機種認定

⑤ 技術研究会

- 第 149 回 (11/18) 電子ペーパー/フレキシブル技術研究会
- 第 150 回 (11/26) MBD トナー技術研究会
- 第 151 回 (2022. 02/04) 電子写真技術研究会カンファレンス 4 DFF2021
(online 10/28, 29)

⑥ 技術講習会・シンポジウム

- ICAI2021&Print4Fab 国際会議(幕張⇒online)
- 第 85 回技術講習会(online 7/13-16, 19)
- 日本画像学会秋・技術講習会(online 12/9)

関西シンポジウム (online 12/10),

⑦ 書籍

「画像処理」「有機半導体」の編集（出版社編集方針見直しによる遅延）

⑧ 領布・販売

標準キャリア領布（トナー技術部会）

(3) 企画委員会（中井理事） 中山理事代行

①イメージングカフェ

- ・今年度は全てオンラインで開催
- ・2021/4～2022/3の機関で計6回（累計93回）実施
- ・延べ参加者96名（会員78名/非会員18名）

②新企画：イメージングテーブル

- ・「技術者が気軽に参加できる雑談の場」をコンセプトとし、参加費無料で開催
- ・2021年12月にスタートし、計2回実施
- ・延べ参加者24名（全て会員）

③関東シンポジウム

- ・他イベント日程との兼ね合いで今年度は開催見送り

(4) コンファレンス委員会（三矢理事）中山理事代行

①2021年年次大会（Imaging Conference JAPAN 2021：ICJ2021）

〔日本画像学会研究討論会（第128回）：日本画像学会年次大会〕

- ・Printing for Fabrication 2021 by IS&T および ICAI2021 by FIS(画像関連学会連合会) 合同の国際会議の中で2021年10月4日～8日に開催した。
- ・対面開催予定であったが、COVID-19の影響が避けられない見通しのため、急遽完全オンラインに変更した。
- ・ICAI：発表数76（目標50）登録参加者数98（目標100）海外からの発表約20%（目標20%）→ 目標をほぼ満たし、まずまずの結果。

(5) 事業委員会（木崎理事）中山理事代行

①第85回技術講習会「困難に打ち克つための画像技術の基礎と応用」

日時：2021年7月13日、14日[EP] 15日、16日[IJ] 19日[シミュレーション]

会場：Zoomによるオンライン開催（講師、事務局は「ユニコムさがみはら」で運営）

参加者数：81名（63）（ ）内は昨年実績

正会員・維持会員：72名※(56)、非会員：7名(5)、学生：2名(2)

※うち2名は応用講座のみ

<トピックス>

- ・昨年より参加人数増加（ただしコロナ前の110-120人には回復せず）
- ・昨年開催できなかったシミュレーション講習の復活
- ・講習の有意性・満足度は良好な評価（アンケート結果より）

- ・ 予稿集、講義資料の電子化、事前配信は好評
- ②秋のチュートリアル「疑問・悩みにとことんお答えします」
日時：2021年12月9日（Zoomによるリモートトライアル開催）
 - ・ リモートでチュートリアル講習が可能であることを検証
（講師、参加者が顔出し参加）
- 来年度の技術講習会（ハイブリッド開催を予定）にフィードバックする

* 第2号議案の審議結果

2021年度事業報告について賛成多数で承認された。

（事前投票：賛成40票、反対0票、議長委任323票）

6. 第3号議案：2021年度決算案・監査結果【審議・承認】（服部理事、中居監事）

（1）2021年度決算報告

①収支概要

- ・ 2021年度通期事業活動収支は137万円の黒字決算。

②事業活動収入詳細

- ・ 正会員減止まらず
- ・ 研討/研究会参加費ほぼ予算どおり復調傾向
- ・ 講習会参加費収入予算超過復調傾向
- ・ 標準キャリア頒布堅調
- ・ 国際会議完全オンライン化で規模縮

③事業活動支出詳細

- ・ 会誌増頁増カラー
- ・ 研究会、講習会リモート開催により会場費減
- ・ デジタル化費増 Zoom等
- ・ 諸委員会、理事会等リモート開催
- ・ 国際会議オンライン化により規模縮小

④ 事業収入の推移

- ・ 正会員費収入2年連続大幅落ち込み
- ・ 研討・研究会、講習会参加費復調あるも元には戻らず

⑤ 事業支出の推移

- ・ 会誌発行費増（増頁増カラー）
- ・ イベント開催費用回復傾向
- ・ オンライン化による経費軽減状態を継続

（2）2021年度監事監査報告

①監査方法の概要

- ・監事は、理事会や重要な会議に出席するほか、日本画像学会の関係者から事業の報告を聴取し、重要な書類の回付を受け学会における業務及び財産の状況を調査致しました。
- ・日本画像学会の関係者および財務委員会からの報告および説明を受け、監査委員会を実施して、収支決算書および貸借対照表について監査を実施致しました。

②監査結果

・業務監査の結果

日本画像学会の業務については、日本画像学会の年度計画、事業計画等に基づき適正に運営されていると認めます。

・会計監査の結果

2022年5月20日に監査委員会を実施した結果、服部財務委員長より説明があった、2021年度日本画像学会収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録は、必要な事項を正しく示していると認めます。

*第3号議案の審議結果

2021年度決算案・監査結果について賛成多数で承認された。

(事前投票：賛成40票、反対0票、議長委任323票)

7. 第4号議案：2022年度事業計画/財務計画/年間予定【報告】(中山理事代読/服部理事)

■2022年度事業計画(中山運営委員長)

- ・第2号議案の2021年度事業報告同様、主要5委員会の2022年の活動計画について運営委員長が代表して報告させて頂く。
- ・活動計画に続き、2022年度財務計画について財務委員長より報告させていただく。
- ・5委員会以外の活動計画は配布資料を参照頂き、質問等をお願いしたい
- ・学会の体制図、常設委員会組織図、技術委員会/技術部会組織図を示して説明した。

(1) 編集委員会

① 組織

・編集委員会

定期委員会開催(年6回)

学会誌編集, 校正

編集, 査読プロセス改善

→査読マニュアルの整備

・査読体制の強化の継続

主に技術・学術面と、主に体裁・要件を審査する2名査読者体制
技術面の査読候補者の拡充

- ・会誌電子配信の充実継続
海外在住会員，シニア・学生会員
- ・学会内他組織との連携
ICJ (ICAI) 実行委員会との連携継続
4DFF 論文誌発行協力の継続

② 学会誌

- ・年6冊の定時発行
ICJ 発表からの論文勧誘の促進継続
年1回の英文クラスタ論文特集号
特集記事 (IT/AT) の充実
Imaging Highlight, 教育講座, 研究室訪問の掲載を継続

③ その他の活動

- ・フリートーキング開催
第40回, 第41回を企画, 開催予定
- ・ICJ 編集委員長賞, 学会誌論文賞

(2) 技術委員会

- ① 技術研究会の開催
- ② 技術交流会の推進
- ③ 書籍:「画像処理」「有機半導体」の出版
- ④ ICJ2022 オーガナイズドシンポジウム(部会企画) 開催
- ⑤ 活動予定
 - ・主査会議、技術委員会総会の開催
 - ・HP の充実
 - ・技術講習会 (春・秋)、関東・関西シンポジウムへの協力
 - ・複写機遺産認定事業の継続

(3) 企画委員会

- ① イメージングカフェ
 - ・1回/2ヶ月のペースで計5回開催予定
 - ・引き続きオンライン形式をベースとするが、
リアル開催が可能となった場合はハイブリッド形式を想定
- ② イメージングテーブル
 - ・イメージングカフェと交互に開催予定 (オンライン限定)
 - ・内容は参加者の声を聞きながら柔軟に対応する
- ③ 2022年度シンポジウムの企画運営

・各技術部会による一年間の振り返りと、
近年の技術トピック紹介を主とした内容で12月に開催予定

(4) コンファレンス委員会

① 2022 年年次大会 (Imaging Conference JAPAN 2022 : ICJ2022)

[日本画像学会研究討論会 (第 130 回) : 日本画像学会年次大会]

<計画> 開催日: 2022 年 6 月 22 日 (水) ~24 日 (金) (完全オンライン)

<改革> 幹事会社制の廃止 (オンラインから段階的に難易度を上げる戦略とする)

<コンセプト (スローガン) > 画像が拓く豊かな共奏社会の創造

(Enriched Synergic Society Powered by Imaging)

<目標> 一般講演 45 件 (うち、ポスター10 件)、招待講演 5 件

登録参加者数: 250

<実績> 一般講演 37 件 (うち、ポスター8 件)、キーノート 1 件

招待/記念講演 10 件

(5) 事業委員会

これからも若手/中堅技術者育成に繋がる活動を行います!!

① 第 86 回技術講習会 2022 年 7 月 4 日 (月) ~8 日 (金)

サブタイトル「困難に打ち克つための画像技術の基礎と応用」

- ・ハイブリッド開催を予定 (リアル会場は「ユニコムさがみはら」)
- ・『基礎知識の習得と深化』で実務に直轄できるプログラム作り、講習内容の充実
- ・中堅者を対象とした技術動向、将来技術展望、展示会社イベントも盛り込む
- ・各社、各大学におかれましては、講師の派遣協力をお願いいたします (講師依頼中)
- ・シミュレーション講習も開催予定 (シミュレーション部会と連携)

② チュートリアル 2022 年 11 月~12 月に開催予定

- ・講師と直接議論しながらの特別セッション
- ・『電子写真技術』、『インクジェット技術』、『シミュレーション』
の 3 分野での実施を検討中
- ・開催方法 (リアル/オンライン/ハイブリッド) については
コロナの状況に応じて決定
- ・定員は各講習 15 名程度

■2022 年度財務計画 (南財務委員長)

(1) 2022 年度予算編成方針

- ・2021 年度はコロナ禍のもとで、計画されたイベントはすべて実行でき、
オンライン基調での収支感が把握できた。
- ・2022 年度は、コロナ禍後初の年次大会春秋開催年となる。2021 年度実績
と過年度からの推移を見定め見通しのきく予算編成を行った。
- ・オンライン化は、新型コロナ感染対策の意味だけでなく、主催者、参加

者共に多くのメリットのある手段として、今後も活用していく。

(対面イベント再開は、社会状況に合わせた安全な対面併用の運営を都度検討。)

- ・収入の部では、会費収入の漸減傾向を反映した。研究会・研究会参加費は、前年の国際会議相当分を年次大会に置き換えて加算した。会費収入減は、将来の学会運営に支障をきたす問題であり、今後議論を進めていく。
- ・支出の部では、オンライン利用で激減した会場費、会議費、運搬費等を実績に合わせて減額計上した。会誌発行費については、諸物資高騰の動向を反映し増額計上。
- ・国際会議準備資金積み立ては今年度も見送る。

(2) 収支予算概要

- ・会費収入減傾向を反映
- ・事業収支は平常年オンラインで試算
- ・収支上は 101 万円の黒字予算

(3) 事業収入詳細

- ・会員減実態の反映+年次大会開催での新規入会期待
- ・研究会講習会オンライン一部ハイブリッド開催を想定
- ・国際会議開催予算は無し

(4) 事業支出詳細

- ・会誌発行費増諸物価高騰に備える
- ・検討・研究会、講習会費オンライン一部併用想定
- ・委員会費、諸会議費オンライン想定、対面も可
- ・通信運搬費対面/オンライン併用あり想定
- ・事務員費対面イベント増に備える
- ・今年度租税公課なし

(5) 投資活動、財務活動収支

- ・投資活動支出：国際会議準備基金積み増しは実施しない。
- ・器具備品費取得支出：新規固定資産導入は見送り

8. 質疑応答

質問 (中島さん)

正会員数が大幅に減少している。

コロナの影響があると思うが、コロナ影響がなくなっても元々下降傾向であったのでコロナ前の 1000 人程度まで戻るの難しいのではないか。その点をどう考えているか？学会が提供しているイベント等のクオリティ向上はもちろんだが、学会が行っていることに対する情報発信が上手く出来ていないのではないか。

正会員にはメールで発信しているが、読んでいない人も多いと思うし、維持会員では所

属する末端の社員にまで情報が届けられているかはわからない。維持会員ではない業界関係の企業・大学などには情報が届いていない。

これまで届けられていない人達に対して情報を届けるために学会としてどう取り組んでいくかを聞かせて欲しい。

回答（佐藤会長）

会員減に関しては他学会も含め深刻な状況にある。魅力的なイベントの開催など役員研修会で議論しているが成果は出ていない。役員体制も一新し執行部体制も変わったので様々な場面で議論をしていきたい。

回答（河野広報委員長）

今年ホームページを改良して、今まで届けられなかった人達にも情報発信が出来るようなことも手段として考えているので進めていきたい。

中島さん

ホームページのリニューアルは大切だが、ホームページは訪問してもらわないと意味がない。無理やりにでも情報を送るなどの手立てを考えて欲しい。

回答（藤井副会長）

学会の領域の拡大により会員増につなげていきたい。

いままで参加していなかった展示会に出展するなど、現場を探して訪問していくことも検討する。

各技術部会で技術の本質を見極めて、訴求していく。

回答（小林副会長）

退会者の内訳を詳細に解析していく。

執行部も含めての高年齢化、女性参加比率の低さも問題。

女性に対して魅力的な学会にしていくなど、もう一つの軸を打ち出していきたい。

9. 閉会の辞 （佐藤会長）

第65回定期総会を終了します。

本日はありがとうございました。

2022年6月22日

一般社団法人日本画像学会 2022年度総会議事録

総会議長 佐藤 利文 印

議事録署名人 中山 信行 印

議事録作成者 竹内 達夫 印

